

令和5年度第1回朝日町総合教育会議 議事録

日 時 : 令和5年11月7日(火) 12時30分～14時40分

会 場 : さみさと小学校 音楽室

出席者 : 朝日町長 笹原靖直
教育委員 石坂博信(教育長職務代理者)、
澤木昇、野坂真澄、勝田民
教育長 木村博明
オブザーバー さみさと小学校長 竹内静、
あさひ野小学校長 大森祐子、
朝日中学校長 梅澤健一、
富山大学名誉教授 山西潤一、
富山大学教授 黒田卓、
富山大学院教授 林誠一
事務局 (町長部局)
総務政策課長 谷口保則、
住民・子ども課長 加藤優志
(教育委員会事務局)
事務局長 水野真也、スポーツ局長代理 若林仁美、
学校教育局長代理 坂藤左恵子、生涯学習係長 高瀬博樹、
主査 松田健吾、教育センター指導主事 上嶋早織、
学校DX戦略推進WGグループ長 教頭 上田 勝

傍聴者 : なし

- 会議次第 : 1 開 会
2 町長あいさつ
3 協議事項
(1) 朝日町型未来創造DXプロジェクトについて
(2) その他
4 閉 会

水野局長：ご案内の時間になりましたので、只今から 令和 5 年度第 1 回朝日町総合教育会議を開催いたします。笹原朝日町長がご挨拶を申し上げます。

笹原町長：こんにちは。第 1 回総合教育会議を開催しましたところ、出席いただき誠にありがとうございます。本日はオブザーバーとして、大変ご多用の中、学校 D X 戦略アドバイザーの富山大学山西潤一先生、学校 D X 推進コーディネーターの黒田卓先生と林誠一先生、また小中学校の校長先生方にもご参加いただいております。誠にありがとうございます。町では、子育て応援日本一の町を目指しまして、子育て環境づくり、子育て支援策を充実、推進し、切れ目のないトータル的な形の中で、支援を続けているところでもあります。明日もデジタル庁、こども家庭庁にも行って参ります。そしてまたこども家庭庁からの紹介で 10 日に、岡山県奈義町での子育て応援日本一を目指すための会議に、こども家庭庁からの推薦で私どもの町の取り組みを紹介することにしております。こうした様々な形で、特に教育面においては、これまで生徒 1 人 1 台タブレット端末を活用した I C T 教育をいち早く導入し、昨年度からは、地域が抱える課題を見つけ、解決を目指す探求的な学びを実践する朝日町型未来創造 D X プロジェクトを、また、本年度は文科省より、リーディング D X スクール委託事業の採択を受け、効果的な実践例を横展開するなど、教育 D X の充実を図っているところでもあります。さて、言うまでもなく、総合教育会議につきましては、町と教育委員会が一体となって、教育行政を推進するための場であり、私が招集することとなっております。本日は、「生成 A I 時代における学校での端末活用の可能性を探る」をテーマに、皆様に協議をしていただきたいと思いますっております。事務局から説明がございますので、皆様方には忌憚のない建設的なご意見をいただきますようお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。今日はよろしくお願いいたします。

水野局長：それでは次に移ります前に、会議の進行につきましては、総合教育会議設置要綱第 4 条第 3 項の規定により、町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

笹原町長：それでは協議事項についてであります。1 の学校でのタブレット端末の効果的な実践事例について、事務局から説明お願いいたします。

上田教頭：今日は、本年度朝日町の小中学校が指定を受けた文部科学省委託事業のリーディング D X スクールについて中間発表をさせていただきます。私は

さみさと小学校教頭の上田と申します。本日はどうぞよろしく申し上げます。モニターの方をご覧ください。リーディングDXスクール事業について改めて概略を確認します。GIGAスクール構想に基づいた1人1台端末の整備は、この2年間でほぼ完了しましたが、その活用については、自治体、学校間で非常に大きな格差が生じました。国は、全国すべての学校でのICTの活用を推進するために、先進的な取り組みをしている学校を指定し、その取り組みを全国に周知、横展開することによって、その格差の解消を図ります。これが本事業の概略です。朝日町では、指定校としてさみさと小学校と朝日中学校、協力校としてあさひ野小学校が文部科学省より指定されました。では、どのような事例をどのような方法で、全国に横展開を図るか。国は、主に1人1台端末の活用方法について、大きく4つの内容を全国に広めて欲しいという願いを持っています。内容を一言で言うのであれば、授業改善、学校内外との繋がり、家庭での活用、業務改善の4つのことについて、事例を紹介して欲しいということです。私たちはその願いにこたえるべく、この4項目に焦点を当てて、事例を紹介することを決めました。私たちはこれまで多くの実践を蓄積していましたが、横展開にあたり、どのような事例を準備すればよいか。あるいは、他の先進校と連携してできることはないだろうかということを考えて、まずは、有識者に学校DX推進コーディネーターを依頼し、お力添えをいただくこと、そして、全国の先進校を視察して情報交換をすることにより本事業を進めることにしました。我々は早速組織として学校DX推進委員会を立ち上げ、アドバイザーに山西潤一先生、コーディネーターに黒田先生、林先生をご依頼したところ、心よく引き受けてくださいました。我々の相談にも的確に助言をいただき、また町内外の教員に対しても直接指導していただきました。今年度8月17日には3名の先生と、東京学芸大学の高橋純先生を講師として、リーディングDXスクールゼミを開催しました。参集及びオンラインで町内外あわせて約70名の教員が参加し、クラウド活用や授業改善について講義をしていただきました。また、9月28日には、先進校との情報交換を行ってきました。今回は愛知県出川小学校に、町内3小中学校の教員と教育委員会事務局で視察及び情報交換を行ってきました。アドバイザー、コーディネーターの先生方の助言や先進校との情報交換を通して、我々は自信を持って自分たちの実践を紹介できることを確信

したところでもあります。ではどうやって横展開を図るか。横展開の方法として、3つの準備をすることとしました。1つはICTの活用について動画を作成し公開すること、1つは事例集としてのリーフレットを作成し配布すること、1つは授業を公開し実際に見てもらう。この3本の柱で、横展開することとしました。公開授業につきましては、本日13時30分より1階アクティブラーニング室にて4年生の国語の授業を公開しております。見ていただければと思います。個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進にICTを活用した授業改善の視点を持って参加していただければと思います。では、作成中の動画やリーフレットについてお話します。この図は、子供の1日と教員の1日において、どのような場面でICTを活用しているかを示したものです。作成する動画やリーフレットにストーリー性を持たせるために、子供の1日、教員の1日を追った動画を作成することにしました。これは子供の1日についてです。朝はオンラインによる健康観察をして、授業で端末を活用する、こういったモデルです。ここで現在作成中の動画を見ていただきたいと思っております。（動画視聴しながら）子供の1日を追っています。登校前にはオンラインで健康観察をします。直接相談しにくいこともオンラインで担任に相談することができます。授業では、1人1台端末を使って、自分で自己調整しながら、また友達と協力しながら、協働的な学びを進めています。下校後には、学習者用デジタル教科書やAI学習ドリルを使って、自分のペースで学習を進めています。健康面への配慮から使用自体に制限もあります。（視聴終了）これらのように、1人1台端末の活用によりこれまでの学び方が大きく変わりました。また、子供の悩みの早期発見などにも活用が期待されます。全国に提供したい実践例として、探求的な学習や、1人1人が主役となる学習についてです。いわゆる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために、ICTを活用した授業改善の事例を提供します。また、外部との繋がりについては、友好都市との交流や、学校の臨時休業等におけるオンライン授業の実践を情報提供します。また、オンラインを活用した不登校児童生徒への支援もこれからの時代にとっても重要になってきます。これは町教育センターに設置されている適応指導教室から、4年生の児童が外国語の授業に参加している実際の動画です。実際に参加している本人と保護者の了承を得て撮影したものであります。なかなか学校に登校できない児童生徒に

としてはとても大きな支援となります。さらに、家庭での活用としては、AI学習ドリルを活用した家庭学習や、近年話題となっている重すぎるカバンを解消するため、端末のみを持ち帰り、他の教科書やドリルをいわゆる置き勉強する、らくらく登校の事例を提供するものです。今までお話ししたのは、子供の1日についての実践紹介です。今度は教員の1日についてお話しします。これは教員の1日におけるICTの活用を示したものです。朝はオンラインによる健康観察から始まり、授業では子供への指導に生かし、放課後はクラウド活用した業務など、働き方改革にも生かしております。ここで、現在作成中の教員の1日の動画を見ていただきます。（動画視聴しながら）これは教員の1日の業務にICTを活用している動画です。担任は、子供が家庭から送ってきた健康観察を確認して教室で子供を迎えます。悩みがないかも確認できます。アンケートフォームを活用することによって、今まで手作業で集計集約していた業務が劇的に改善されました。保護者への一斉メールの配信では、緊急の連絡だけでなく、おたよりの配信やアンケートのURLの送信も行っております。AI学習ドリルです。子供が自分のペースで学習を進めています。学習の定着状況を子供だけでなく、教員や保護者も確認することができ指導に生かせます。学校間のオンライン会議です。参集する必要はなく、学校が違ってもしっかりと打合せをすることができます。クラウドの活用についてです。クラウドを活用したデータ共有や共同編集によって、作業が大幅に削減されミスも少なくなりました。これらのように、教育DXの推進は、教員の働き方改革に確実に繋がっております。（視聴終了）今ほどの動画にありましたように、全国に提供したい実践例としては、クラウドを活用した業務改善があります。実際に私たちもクラウドを活用し一部の業務では、相当な簡略化が進んでおります。予測困難な時代を迎えるにあたり社会総がかりで持続可能な社会の担い手を育てるという大きな使命のもと、我々はさらに教育DXを推進し、授業改善と業務改善に努めていきたいと思っております。以上、簡単ではございますが、中間発表を終わります。

笹原町長：ただいまの事務局からの説明に対して、オブザーバーの校長先生方よりご意見をいただきたいと思っております。最初にさみさと小学校の竹内校長よろしくお願ひします。

竹内校長：今ほど提示していただいた動画やプレゼンテーションにもありましたが、

学習者用デジタル教科書を活用したり、子供たちの考えを共有するようなアプリも活用することができ、子供たち同士もそこで情報交換したりすることができます。担任の方でも、一気に子供たちがどんな考えをもっているかということを一覧で見えるので、授業の中でも大変生かしくなってきました。今までの教材研究にかけていた時間よりも短時間で、子供たちへの指導について様々なことが考えられるようになると担任からも聞いております。それから、家庭に帰ってからもAI学習ドリルという形では出ておりましたが、実際には音読等を動画撮影して、それを提出するという形をとっております。子供の記録として、子供自身がどれだけ上達したかを自分でも確認することができます。担任の方も、今までだったら、家庭で学習したこと、学校で音読するだけではなく、家庭でどのように学習しているかというような様子も見るできるようになっています。今までの指導方法や学習の仕方と大きく変わってきています。教師もいろいろ準備していますが、それによって子供たちの学習も深まってきたと思っています。ただやはり担任も、それに向けて、スキルを上げていかななくてはならないと実感していますので、ただ単にタブレットを活用するだけではなく、教師自身もそれに向けて日頃の研修を進めていかななくてはならないということを実感しているところです。

笹原町長：ありがとうございます。引き続き、朝日中学校梅澤校長先生お願いいたします。

梅澤校長：中学校では、授業での活用や欠席者への授業配信ももちろんのこと、生徒総会の資料をこれまで紙媒体で印刷していたものを、タブレットを使って生徒1人1台タブレットを持って生徒総会に臨む。また、生徒会アンケートもタブレットを使用しております。また部活動では、部活ごとにチームがありまして、急な連絡等については、タブレットを使って一斉に配信しております。体育大会、合唱コンクール等の学校行事につきましては、不登校や相談室登校の生徒にタブレット端末で配信しておりまして、リアルタイムで鑑賞できるようにしております。先ほどもありましたが、健康観察の備考欄では、悩みや不安を書き込むことができるようになっておりまして、それを養護教諭が中心にチェックしておりますが、それとは別に、カウンセリング指導員が、日頃から、生徒にチャット機能を使って悩みや

不安があればいつでも、相談して欲しいということを伝えております。タブレットを使って、不登校生徒の早期発見や、早期対応にも活用しています。

笹原町長：次に教育委員の皆様よりご質問、ご意見をお願いしたいと思います。それでは最初に澤木委員お願いいたします。

澤木委員：4つのアクションということで、丁寧な説明を受けました。全国では先進的な取り組みに差があるということです。朝日町では先進的な取り組みを、全国に先駆けて、実際に学校で進めている。やりやすいやり方で、先生方がチェックしながら進めておられるということで、大変大きな成果を上げておられるんじゃないかなと感じております。この領域は、やっぱり避けて通れない。必ずタブレットを使って活用していく、そういう時代はやってきます。学校だけではなく、保護者の理解、あるいは地域の理解など、大切な要素になってくるのではないかなと思っています。そういう意味では、このような会議を行い、町内の各家庭などにお知らせする。これは、大事なことになると思います。とにかく新しい取り組みにつきましては、マイナスの意見もあるでしょうが、プラスの方向で進めていくというのは大変大事だなと思っています。つい先日、北日本新聞の記事に目を通しましたところ、やはり、厳しいチェック、しっかりやっていることを確認しながら、前に進めていくことが大事であるということが述べてありました。4つの領域で、先進事例の説明をいただきましたけれども、聞いていて、納得できるものがたくさんあったように思います。個別最適な学びと協働的な学びということに関しては、まだまだ、教師自身の努力も必要ではないかという意見が、ありましたが、私もその点が気がかりです。先生方の働き方改革、働く時間を少なくして余裕をと言いながらも、研修で負担を増やさないように取り組むことが大事だと思います。

笹原町長：勝田委員よろしく申し上げます。

勝田委員：ただいまの中間報告と、あと各学校の校長先生方からも、学校での様子などお聞きしまして、本当に子供と教員の実態に則して、段階的に取り組んでいらっしゃることを大変頼もしく思っています。このように、タブレットを上手に活用することと、やはり教育は人と人との繋がりでとるか体験が大切ですので、ぜひ、この両面ハイブリッドで、しっかりとこれからも効果的に実践していただきたいと思っております。

笹原町長：学校現場側から、教育委員さんからご意見を賜りました。大事なことはやはり、前に向かってやっていくということは非常に大事なことだという。今回の学校でのタブレット端末の効果的な実践とすれば、中間発表ということでもありますので、今後もさらに今ほど作られた意見を大事にしながら、取り組みを行っていただきたいと思っています。それでは次に2番目の生成A I、C h a t G P Tを活用した教員の働き方改革について、事務局から説明お願いしたいと思います。

木村教育長：これからは私と富山大学の林教授からになります。テーマは、ご案内の通り、生成A I、C h a t G P Tを活用した教員の負担軽減の事例になります。スクリーンをご覧ください。文科省が示した7月4日付の通知によりますと、業務の効率化や質の向上などの働き方改革の一環として活用することが、明示されています。実際子供たちに直接関わることは慎重に、その校務での、教員の働き方改革を推進するのは非常に有効だということですので、そうした点につきまして、活用をお示ししたいと思っています。いくつかデモンストレーションいたしますのでご覧いただければと思います。なお、今日は短い時間で、5つの種類のデモンストレーションを行うため、短く答えられるように調整しておりますことをあらかじめお断りしたいと思います。それでは、特別ゲストを紹介いたします。生成A I、C h a t G P Tと連携した人型ロボット **Pepper** 君です。

Pepper 君：こんにちは。私は **Pepper** です。なんでも聞いてね。

木村教育長：それから富山大学大学院教授の林誠一先生です。

林 教 授：よろしくお願ひします。

木村教育長：そして **Pepper** 君と一緒に今ご案内していただいた、富山大学情報推進課D Xコーディネーターの門井さんと木下さんです。よろしくお願ひします。お2人には新型 **Pepper** とC h a t G P Tを連携させる作業を手伝っていただいております。それでは早速、スタートしたいと思います。

木村教育長：**Pepper** 君それではまず、生成A Iについて、簡単に説明してもらえますか。

Pepper 君：わかりました。生成A Iについて簡単に説明します。生成A Iは、新しいコンテンツやデータを生成するために設計された人工知能システムを指します。このタイプのA Iは特定のタスクを自動化したり、人間の想像性を拡張したりするために使用されます。生成A Iは、テキスト、画像、音

楽、ビデオなど多様なメディア形式に対応しています。お分かりいただけましたか。

木村教育長：よくわかりました。ありがとうございます。それではまず1例目から参ります。多くの中学校の現場では、部活動は大変負担だということを聞いております。特に経験したことのない部活動を持った先生は、どうしていいかわからず戸惑ってしまう先生も多いと聞いていますが、どうでしょうか、林先生。

林 教授：私、今は富山大学にいますが、もともと高校の教員なんです。今でもよく覚えているんですけど、最初の部の顧問、全然経験のない運動部の顧問になって、どうやって教ようかなってすごく悩んだのを今でも覚えています。それで、まず今日は Pepper 君に中学校の部活動のメニューを投げかけてみます。中学校部活動、バスケ部のメニューを教えてください。

Pepper 君：OK。中学生向けのバスケットボール部の練習メニューを考えよう。10分でウォームアップを行います。次に25分で技術練習をします。具体的には、ドリブル、パスやキャッチの練習、シューティング練習、ディフェンスの基礎などです。次にチームプレイと戦術を練習します。オフェンス戦術練習で10分、ディフェンス戦術練習で10分です。最後に5分で短時間ゲーム形式の練習をしましょう。これは実践的なプレイの感覚をつかむためです。この練習メニューは選手達の基本スキルの向上に重点を置きつつチームプレイの理解を深めるための戦術練習を含んでいます。時間管理と練習の流れを事前に計画して、楽しく練習をしよう！

林 教授：ありがとうございます。こういうアドバイスがあると、新任の時、助かっただろうと思いました。続けて、もう1つ先生方が大変だなと思うことに、修学旅行があるんですね。例えば中学校で修学旅行ありますけど、行き場所を決めるんですけど、そこで何をするかっていうのは、これも私経験がありますが、パンフレットを集めたり問い合わせたり、結構時間がかかります。それで、今日は中学校修学旅行で、よく行くのは京都旅行です。Pepper 君、京都の修学旅行のコースを考えてください。

Pepper 君：わかりました。充実した修学旅行ができるようなメニューを考えます。今回は京都での観光を、3つのコースに分けてみました。1つ目は、名勝と自然のコースです。京都駅周辺からスタートし東山エリアへ移動、清水寺で散策をします。日本の風情を感じ夕方には高台寺や円山公園を散策して、四季折々の自然を楽しんだ後に宿泊施設に移動します。2つ目は歴史

探索コースです。京都御所の見学からスタートし、徒歩やバスで錦市場を散策して、京都の食文化に触れます。午後には金閣寺を訪れ、その美しい姿に触れた後、嵐山エリアに移動します。夕方に嵐山を散策してから、宿泊施設に移動します。3つ目は現代文化と伝統工芸のコースです。京都国際マンガミュージアムでの見学や京都駅でショッピングを楽しみます。午後には、伝統工芸の体験をして、夕方に帰路につく前に伏見稲荷大社を訪れ千本鳥居を散策します。以上が3つのコースです。京都は人気の観光地であるため、春や秋のシーズンは混雑が予想されます。計画的に訪問するようにしましょう。これはあくまで1例ですので、学校の方針や、生徒たちの興味に合わせて楽しい修学旅行にしてください。

林 教授：学校現場では、これがきっかけでいろいろ調べたりできます。負担軽減になると思います。次は、直接子供たちの指導に関わる支援をしていきたいと思うのですが、私、実は理科の教員だったんです。例えば、子供たちの学習の程度をつかむときにやっぱり定期的に確認テストやミニテストとかやるのですが、問題作りって結構大変なんです。どんな問題をどう作り、どのタイミングでやるかって難しいんですけど。今回はちょっと小学校理科の問題をどの程度つくれるか試してみたいと思います。Pepper君、小学校6年生の理科の問題を考えてみてください。

Pepper 君：わかりました。小学校6年生の理科の問題を作ります。小学校6年生の理科では、一般的には電気、エネルギー、丁寧な調査、地球の動きなどが学習テーマとなります。その分野から2つのテスト問題を作成しました。電気の利用。問題、電流が流れるためには閉じた回路が必要です。以下の選択肢のうち、電流の流れるのはどれでしょうか。A、電球の切れた懐中電灯。B、スイッチが入の位置にあり電池が正しくセットされた懐中電灯。C、電池が逆向きにセットされたラジオ。正解はBです。エネルギーの変換。問題、以下のエネルギー変換の例を正しい順番に並べ替えてください。手回し発電機を使ってLED電球を光らせるときのエネルギー変換。A、電気エネルギー。B、光エネルギー。C、運動エネルギー。正解の順序はC、A、Bです。これらの問題は、子供たちが学習内容をしっかり理解し、その知識を適切に適用できるかを評価するために有効です。また、実験や観察の経験をもとにした応用問題を入れることで理解を深めることもできます。

林 教授：Pepper 君ありがとう。こういった問題を参考にして、あとは教員の少し手直しが必要でしょうけども大変助かると思います。じゃあもう1つ。外部との関係ですが、学校はやっぱり外部との関係が非常に大きくて、学校行事などたくさん案内文書を作ります。これが年間通すとたくさんあって、どんな文書をどう出すかというのは、非常に考えてしまい時間を取る。次はですね、学校が発出する文書の文例、特によく出す保護者向けの例えば授業参観の案内文も聞いていきたいと思います。Pepper 君、授業参観の案内文を作ってみてください。

Pepper 君：わかりました。以下が文章の内容になります。保護者様各位、件名、授業参観のご案内。拝啓 初夏の候貴下におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。次に、授業参観日の日時、場所を書きます。次に当日のスケジュールを書きます。受付、1時間目の授業時間、2時間目の授業時間の開始時間と終了時間を書きます。参観のご案内では、参観中に注意していただきたい事柄を書いておきましょう。その他のお知らせでは他に知らせておきたい事柄を書きます。皆様の御来校を心よりお待ちしております。敬具。最後に日付、学校名、名前、連絡先を記しておきましょう。以上が1例となります。

林 教授：今は、Pepper 君にしゃべってもらいましたが、PC等でAIに聞いて、実際に印刷して出てきたのがお手元の印刷物です。私も学校にいた時にいろんな文書を作りましたが、こういった型があると非常にスムーズに作れる。

木村教育長：ここで、次のバージョンに移るのですが、ご存知の通りChatGPTはデータの分析や作成などもできる。次に、その例をご覧いただきたいと思います。保護者面談の日程調整を行います。

松田主査：Pepper 君とは会話しながら、やっていましたがChatGPTは基本的にパソコンで、使うと一番使いやすいと思います。これは例ですが、学校で行われる保護者面談で、希望日時は今までこういうアンケートフォームで学校からきて、回答します。回答のデータが蓄積されます。アンケートフォームに希望日時を保護者が入力すると、こういうデータの羅列でデータが蓄積されます。今までは、これをもとに先生が手作業で、誰がどこを希望しているのかを割り振りをしていた。こういったものも、ChatG

P T、生成A Iで作成することができます。これは実際のC h a t G P Tの画面です。ここに先ほどの保護者面談の希望日時のエクセルのデータをC h a t G P Tにアップロードします。これをもとに保護者面談の日程を作ってください。1人当たりの利用可能時間は15分です。日別で時間割を作ってください。面談の可能な時間は14時から18時です。エクセルで出力してください。こういう指示文をC h a t G P Tに送ります。返ってきた答えがこちらです。送ったエクセルファイルを読み込みこういったデータがあります。こういうルールに基づいて、作成していきますという説明が書かれています。しばらく待つと、エクセルファイルに出力されました。以下のリンクからダウンロードできますとなり、実際にダウンロードができるようになります。これが返ってきたデータです。訪問日と誰がどの時間でという日程表を自動的に作ってもらったものです。これはデータを読んで解析して、生成し直しているの少し時間はかかり3分ぐらい待ちました。先ほど林先生も言われた授業参観の案内を作ってみました。そういったものもワードで作ってくださいというと、最終的にファイルができ上がります。これは試しにやってみたものです。こういった感じで、ワード形式で案内文ができ上がる。これを素案にして、先生方が加工しながら、使っていけば、時間の短縮にも繋がるのではないかと思います。使い方はかなり可能性があると思います。先生方にどういうふうに使っていけば便利になるかを考えてもらいながら、今後導入を進めていければと思っています。

木村教育長：1つの種類のデモンストレーションです。これは文部科学省のガイドラインにそった形での校務の活用事例から、デモンストレーションを行ったところでは、初めて見られた方も多と思います。ご意見を伺いたいと思います。

野坂委員：最後の保護者面談ですが、私もよく記入することがあって、これ先生、手入力して仕分けされるのかなあと思っていた。だから、3分程度で結果が出てくると聞き、これだったらすごく早く、お知らせを送ることもできるので、またいろんな分野でたくさんの使い方もあると思います。駄目な使い方もあると思うので、いろんな事例を試していただいて、良い悪いの選択をして前進できるように活用して欲しいと思う。

木村教育長：実際使ってみた上で、いろいろ検討して欲しいというご意見でした。学

校現場ではどうですか。

大森校長：今見せていただいたようなことは、今まで学校で大変時間をかけてやっていたことで、これが働き方改革の一環としては大変有効であると思っています。効率化された時間、余ってきた時間で、さらに質を良くしたり、先生方の研修の時間を取ったり、子供との時間を生み出すことができると思っています。ぜひ活用したいものです。ただやはり言われていたように、あくまでもたたき台としての活用というところで、最後は自分たちが、考えて判断しなければいけないことがたくさんあると思っています。それとこれを使いこなすためには、私たち自身は、指示文を出すことについては、もう少し学んでいかなければいけないと思っています。必要な情報をより分かりやすく正確に得るためには、どういった指示文を出せば良いのかというところを研修していきたいと思っています。最後に、生成A Iは間違えることもあるということを念頭に置きながら、私たちが最後やはり正確に判断していくことが大事かと思っています。

木村教育長：使い方につきましては、私たちは、富山大学の先生方という力強い味方がおられます。ぜひ協力を仰ぎながら、ゆっくりとしっかりと進めていきたい。

石坂委員：大変すばらしいデモンストレーション、分かりやすく、ありがとうございました。C h a t G P Tなどの生成A Iにつきましては、今後の社会を大きく変える可能性があり、教育分野においてもその活用は避けて通れないものだと思っています。個人情報保護とか、著作権の侵害とか、さらには生成文章のすべてが正しいと思ってしまいがちなことなど様々な懸念も指摘されておりますけれども、どの場面でどう使っていくか、適切な活用方法を導き出すことが大変重要であると言われております。今、教員の働き方改革は喫緊の課題であります。朝日町では、これまでも数々の負担軽減策が講じられてきましたが、生成A Iの適切な活用方法という観点からは、各種案内文や、修学旅行計画素案の校務の徹底的な効率化など、まずはできるところから、直ちに行っていくということが大切であります。生成A Iを活用した労働環境改善、働き方改革は、まさに時宜を得た取り組みであり、先進的な事例となるのではないかというふうに考えております。本日は時間も限られていますが、具体的な効果や課題の見通しなど、有意義な協議の場となることを期待いたします。最後にお知らせでござ

ざいますけれども、皆さんのお手元の資料の1番後ろに7枚ほどの文科省の暫定的なガイドラインがありますが、その2枚後に同じく文科省のG I G Aスクールにおける学びの充実という資料についてお話をさせていただきます。この中でG I G Aスクール構想の加速化事業というのを3段階に分けて書いてありますが、一番右側でリーディングD XスクールのタイプIIというところで、生成A Iを活用した校務・授業実践研究というふうに書いてあります。この「校務」は、本日の議論でもありましたけれども、令和5年度ですぐに取り組んでいくということですが、「授業の実践研究・実証研究」というのは、この取り組みを加速化させて令和6年度にこれを実施していこうということ、今日の午前中の定例教育委員会で全会一致で確認されましたので、お知らせいたします。

木村教育長：来年度の概算要求で文科省は、生成A Iを実証・実践授業をやることにしています。それに、朝日町ものっていく形で進めていきたいですねという話をしました。それでは富山大学の黒田先生お願いします。

黒田教授：こういう形で取り組みを先進的にやってらっしゃるところで、私も関わらせていただいております。特に生成A Iの件であるとか、教育D X、デジタルトランスフォーメーションは早くと。今日もニュースで流れていましたのでご存知だと思いますけど、C h a t G P Tも、新しいパッケージのC h a t G P Tターボが出てくるっていう。処理速度が16倍になるので、さっきの3分かかると言っていた話はあっという間に終わる。もう数ヶ月先にはどうなるかわからない。それから、タブレットを使って学習するっていう、今まだこれも全部そうですけど、やっている学習は、ある意味、我々が学んできたやり方の一部をデジタルに置き換えているという、レベルだと思うんですけど、これから先は本当に学びというものが、どうすればいいのか、何を学ばなければならないのか。そういったようなところがこれから多分大きく変わってくると思います。先ほども少し見ていたんですけど、1つの例としては、例えばG o o g l e レンズというアプリケーションがある。G o o g l e レンズ、この前タイからお客さんが来られて、日本語のパンフレットしかないですと言って申し訳ないですがとお渡ししたら、全然問題ないです。G o o g l e レンズという無料のアプリで、スマホでかざすと全部タイ語に変換する。すごく便利で、同じように日本語化や英語化ができる。G o o g l e レンズの翻訳機能に関して

は結構大学生は使うことがあります。英語を訳すという作業がもう機械でやってしまうという時代になっている。何を学ばないといけないかというのを考えないといけなくなってくる。今回朝日町の取り組み、子供たちだけではなくて、教員も使ってみるというのが、また生成A Iに関しては、教員が使うところから始めるというその取り組みがいい。さらに、できればその保護者案内、先ほどの文書の一番最初かどこかにC h a t G P Tで作成しましたとか、そういうのをいれて、あえてこう意識をさせるっていうかですね、経験のない方にも伝わっていくのではないかな。保護者もやっぱりそういうのを理解しないと、ただ学びが変わるっていうイメージできないから。こう意識をして、進めていくと非常に意味がある。

木村教育長：ありがとうございます。林先生、実際使ってみて、感じたことそれも含めてコメントをお願いします。

林 教授：ここにこの **Pepper** 君が中央に鎮座するといかにも主役に見えるが、いないと駄目なんじゃないかみたいな感じになるかもしれませんが、主役は、ここにいる皆さんですし、学校の先生方です。実際 **Pepper** 君はこの無線LANに繋がって行って、A Iに聞きにいった聞いたことを答えるという形になるんですけど、実際は我々が問いかけて何をどう問いかけるか、それによって出てきたものをどう使うか、その主役は我々であって、実は **Pepper** 君じゃない。まずそれは大事にして欲しい。もう一つは、我々が知らないもの怖いんです。わからないものすごく怖くて、何かこう危ないんじゃないか。こんなことが起こったらどうしようって不安になってしまうんですけど、僕はやっぱりまずは使ってみる。でもそれさえやらずに怖いだけだと先に進みません。使って、どんないいところあるいはここは気をつけないといけないのかっていうことは、まずは体験することが僕は大事だと思う。

木村教育長：ありがとうございます。山西先生をお願いします。

山西教授：はじめの一步という形で生成A Iの活用、大変すばらしい取り組みだと思います。生成A Iは学習機能があって、それぞれの学校の年間スケジュールはいつどんなことをやるか大体決まっている。それで、例えばさっき修学旅行もそう。そういう意味では、ある程度学習させていく。例えばこの学校は校長先生の少し個性を出して、学習して、今、非常に汎用的な答えが返ってきている。こいつをどんどん使いこなして学習させて、それぞれ

の学校の特色ある校務機械が作られたらいいかな。文章作成をA Iは学習機能があるので。やっぱりすばらしいと思います。それで、大事なことは、これからこういう時はこういう問いかけをする、プロンプト集を作っていくそれが大事なんです。ですからこちらのレベルが低いと変な問いかけになって、うまい答えが返ってこない。だから、逆にこれは授業でも使えるかもしれない。子供たちが直接使うのはまだ文科省的にはNGだが、先生が子供たちとどういう問いかけがいいのか聞いて、想像性を育む。そしてその問いかけに対して、変な問いなら変な答えになったりする。そういう意味では、子供たちの感性とか能力を高める道具として先ほどの授業の中でも使って、授業実践でもA Iの研究をやりたいとおっしゃったけども、そういうことだったらいいかなと思う。もう少し言うと、リーディングDXで検証して欲しい。こういうことをやったらこういう効果が出た。子供たちの意識がこう変わったとか、あるいは先生の意識がこう変わったとか、実際に業務量がこれだけ減ったとか。ランドセルなんてもう典型的にわかって、温度差がこれだけあったっていう、すごく目に見える形だった。そういう意味では、とつてもすばらしい校務改善になるし、授業改善になるなど思う。もう1つ授業に関して、今、キーワードは個別最適化という言葉があるのですが、これは個別最適化というのは教師の視点で見るか子供たちの視点で見るか、A I学習ドリルとか何かもろもろの心の状況を書くとかあったが、ぜひそのデータを将来的には、先生がチェックするとかかなりの負担があるのでA Iにチェックさせて、この子はずっと赤信号、黄色信号だとか、そしたら先生はそのあとそれに対して介入していく。そういう使い方もできるのではないか。心の問題だけでなく、授業でも子供たちの発達がどう変わるかが大事である。まあ、最後ちょっと、先程の学びの充実の文科省の予算資料の中で、リーディングDXタイプIIをこれからも受託していこうという時に生成A Iを活用した公務・授業実践研究は今後もやっていける。2点目の高度なプログラム教育やデジタルものづくりに関する実践研究だが、非常に興味が私自身ある。再来週、富山県小学生プログラミング大会とあって、小学生がもう高校、大学並のことをやるんです。ものを作る。なぜできるのか。自立的な学び、実は私の教室の子供で私が教えているが、私は背中を押しているだけである。そういうものづくり、これは小中連携してぜひなかなかプログラム教室は現実問題とし

てできていないが、プログラムはモノづくりや情報社会を支えていく基礎
ですので、最終的に何が問題でどう解決していくかの、問題解決能力がつ
いていく。なんなら私がいくらでもお手伝いします。ぜひ 18 日ですね、
再来週、黒田講堂であります。興味があったら見て頂ければ。

木村教育長：どうもありがとうございます。プログラミング教育の第一人者の山西先
生ですので、また、教えていただければと思います。時間も迫って参りま
した。私最後に、町長に代わりまして、ご挨拶をいたします。本日はご多
用の中、総合教育会議においでいただきましてありがとうございます。今
日は「生成 A I 時代における学校での端末活用の可能性を探る」という大
きなテーマとして開催しましたところでは。生成 A I C h a t G P T の登
場によりまして、様々な分野によってその活用が始まっております。教
育分野においても例外ではないということだと思っております。特に教員の
働き方改革推進のため、校務での事務効率化には、大変重要な視点である
と思っております、どのように使うのが効果的なのか。どんなことに気
をつけなければならないのか。そういったことを今後、富山大学の皆さん
の協力のもと、検証して参りたいなというふうに考えております。会議に
つきましてはこれで閉会とさせていただきます。今日はありがとうございました。
それで最後に、追加でございますが来年度、朝日町教育委員会と
しては、文科省の TYPE II の方に、進めて参りたいなというふうに考えて
おるところでございます。また皆さん方のご協力、ご支援よろしくお願
いいたします。

水野局長：それではこれで閉会ということでございますけれども、その他というこ
とで、今回、住民子ども課の方から、朝日町の健全育成事業についてという
資料 3 を添付させていただきました。時間の都合もあり、今日は説明を割
愛させていただきますが、参考として後ほど目を通していただければと思
います。それからご連絡が 1 つございます。公開事業は、1 階正面のアク
ティブラーニング室で、14 時 15 分までの日程で行われております。内容
はタブレットを活用した個別最適な学びの授業 4 年 2 組の国語の授業で
ございます。C h a t G P T の活用授業ではありませんので、よろしくお願
いしたいと思います。時間の許される方、ご覧いただければというふうに
思います。事務局からは以上です。本日は皆さんどうもありがとうございました。